



Sun Java™ System

Sun Java Enterprise System 2005Q1

リリースノート

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-0815

Copyright © 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、この製品に含まれるテクノロジーに関する知的所有権を保持しています。特に限定されることなく、これらの知的所有権は <http://www.sun.com/patents> に記載されている 1 つ以上の米国特許および米国およびその他の国における 1 つ以上の追加特許または特許出願中のものが含まれている場合があります。

このソフトウェアは SUN MICROSYSTEMS, INC. の機密情報と企業秘密を含んでいます。SUN MICROSYSTEMS, INC. の書面による許諾を受けることなく、このソフトウェアを使用、開示、複製することは禁じられています。

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者が開発したソフトウェアが含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd が独占的にライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Java、Solaris、JDK、Java Naming and Directory Interface、JavaMail、JavaHelp、J2SE、iPlanet、Duke のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴ、Solaris のロゴ、SunTone 認定ロゴマークおよび Sun ONE ロゴマークは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

Legato および Legato のロゴマークは Legato Systems, Inc. の商標であり、Legato NetWorker は同社の商標または登録商標です。

Netscape Communications Corp のロゴマークは Netscape Communications Corporation の商標または登録商標です。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

この製品は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト (輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む) に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

目次

表目次	5
既知の問題一覧	7
Sun Java Enterprise System リリースノート	13
コンポーネントのリリースノート	13
リリースノート改訂履歴	14
Java Enterprise System 2005Q1 について	14
このリリースで追加された新機能	15
ハードウェアおよびソフトウェアの要件	19
Java 2 Standard Edition の要件	21
Java Enterprise System のインストール後に Solaris 9 Update を適用する	21
J2SE インストールについての情報を収集する	22
J2SE の更新が必要かどうかを確認する	23
/usr 内の J2SE インストールを更新する	23
別の場所の J2SE インストールを更新する	24
非推奨に関する注意事項	26
サポートされない機能	26
重要なパッチ情報	26
このリリースで修正されたバグ	27
互換性の問題	32
既知の問題および制限事項：インストール	33
インストールに関するさまざまな問題	33
Access Manager のインストール	36
ロードバランサまたは SSL オフローダで動作する Web Server の設定方法	36
管理サーバーのインストール	39
Application Server のインストール	40
Directory Server のインストール	40

Message Queue のインストール	41
Messaging Server のインストール	42
Messenger Express/Communications Express	43
Delegated Administrator	43
Net Connect のインストール	48
Portal Server のインストール	48
共有コンポーネントに関する問題点	49
Sun Cluster のインストール	49
Web Server のインストール	51
ローカライズに関する問題点	51
既知の問題および制限事項：アンインストール	52
既知の問題：Linux の場合	54
必須ライブラリ	54
Netscape Security Services 3.9.5 のサポート	57
Java Enterprise System についてのマニュアルの更新および正誤表	57
再配布可能なファイル	59
問題の報告とフィードバックの方法	59
コメントの送付方法	60
Sun が提供しているその他のリソース	60

表目次

表 1	改訂履歴	14
表 2	Java Enterprise System コンポーネントの新機能	15
表 3	Java ES の完全インストールのためのハードウェアおよびソフトウェアの要件	19
表 4	コンポーネントのディスクインストール領域と RAM 要件	20
表 5	このリリースで修正されたバグ	27

既知の問題一覧

既知の問題および制限事項：インストール	33
インストールに関するさまざまな問題	33
複数のバージョンの comm_dsetup.pl が存在する (#6225803、6225809/6226161)	33
Solaris 10 上での Messaging Server のインストール時の FQDN エラー (特定の ID なし) ..	33
/share に十分なディスク容量がない (5099218)	33
Access Manager が SSL を使用している場合、SSL 暗号化を使用して Portal Server を 配備できない (6211026)	33
サイレントモードの場合、インストーラは共有コンポーネントパッケージの一部をアップ グレードしない (6208244)	33
Sun Cluster HA 環境では、Directory Server および Messaging Server、およびそれぞれ 対応する管理サーバーをインストールできない (6210690)	34
Application Server 7 を実行している場合、Access Manager で新規の WSRP Consumer Producer を作成できない (6202285)	34
インストールログメッセージは、常に有効であるとは限らない (特定の ID なし)	34
インストーラが X11 ウィンドウサーバーに接続できない場合、サイレントインストール が失敗する (6182249)	35
一部の共有パッケージが Solaris 10 でインストールされない (6174538)	35
管理サーバーのインストール時に、GUI インストーラで FQDN の入力が求められない (5103675)	35
データサービス内の「Sun ONE」という表現は「Sun Java System」とすべきである (特定の ID なし)	35
コンポーネント選択ページのコンポーネントの自動選択が混同する (4957873)	36
CD インストール時にパスワードが画面に表示される (5020621)	36
選択したコンポーネントに関する表示がページによって異なる (5033467)	36
Access Manager のインストール	36
SUNWxrpcrt パッケージと、Access Manager SOAPClient/JAXRPC サーブレットとの 互換性がない (6215206)	36
既存のコンソールのプロトコルを入力できない (5045612)	36
コンソールのみインストール設定が失敗する (5047119)	37

Web Server 上でインスタンスを作成すると例外がスローされる (5048518)	38
pre61to62upgrade スクリプトが DB ベースのログを適正に処理しない (5042233)	38
Access Manager の最初のインスタンスのインストール (特定の ID なし)	39
Directory Server の SSL が有効な状態で Access Manager 2005Q1 をインストールする (特定の ID なし)	39
パスワードおよびルートサフィックスで単一引用符を使用できない (特定の ID なし)	39
Directory Server 5.1 sp2 がパスワードのリセットを実装する場合、Access Manager の インストールが失敗する (4992507)	39
管理サーバーのインストール	39
Directory Server および管理サーバーを別々のセッションでインストールできない (5096114)	39
Application Server のインストール	40
以前のバージョンの Application Server がシステムに存在する場合、インストールが 失敗する (5110257)	40
使用中のポートを選択するとインストールが失敗する (4922417)	40
インストーラが、ユーザーが設定ページで入力したホスト名を認識しない (4931514)	40
Directory Server のインストール	40
アンインストールしてから再インストールすると、Directory Server を設定できない (6223527)	40
Directory Server および管理サーバーを別々のセッションでインストールできない (5096114)	41
Message Queue のインストール	41
Message Queue が Java ES インストーラでインストールされている場合、アン インストールにアンインストーラが必要 (特定の ID なし)	41
Messaging Server のインストール	42
inetDomainstatus が削除済みの場合に msuserpurge が mailDomainStatus を削除済みに 設定しない (#6245878)	42
不正な store.sub を修正するためのツールが必要である (#6206104)	42
不在返信テキストが保存時に壊れてしまう。ハードリターンが保持されない (#6199714) ..	42
Messaging Server と Directory Server を異なるマシン上にインストールする際の問題 (特定の ID なし)	42
スキーマ 2 のサポートを含む Messaging Server (および Directory Server) の使用 (4916028)	43
添付の保存が機能しないことがある (#6196347)	43
自動スペルチェックが削除された (#6192219)	43
全組織の「ドメイン状態」か「メールサービス状態」を変更すると、「ドメインの ディスク制限容量」の値が失われる (#6239311)	44

サーバーエラー。新規のユーザーを作成または既存のユーザーを編集しようとする、 管理者がログアウトされる (#6234660)	44
「ユーザープロパティ」ページで、「転送先アドレス」ボックスをオフにし、「ローカルの 受信箱」を選択して、変更を保存することができない (#6230702)	44
Delegated Administrator が config-commda プログラムで再設定されると、 resource.properties ファイル内の値が上書きされる (#6218713)	45
sunpresenceuser および sunimuser オブジェクトクラスを両方ともユーザーエントリ に割り当てると、commadmin user modify コマンドが失敗する (#6214638)	46
新たに作成されるユーザーがドメインのタイムゾーン (TZ) を継承しない (#6206160)	46
commadmin domain purge コマンドがカレンダーリソースをパージしない (#6206797) ...	46
管理者を正常に追加するために組織のプロパティ ... ページを保存する必要がある (#6201912)	46
TLA または SPA が共有組織の「ドメインのエイリアス名」テキストフィールドを 更新できない (#6200351)	46
組織内のユーザーからすべてのサービスパッケージを削除し、次に「サービスパッケージ」 ページから新しいサービスパッケージを割り当てると、新しいサービスパッケージの割り 当てに失敗する (#6198361)	47
デフォルトの管理者の電子メールアドレスを指定できないため、ASCII 以外の新しい 組織でエラーが発生する (#6195040)	47
組織からサービスパッケージを削除すると、「サービスパッケージの割り当てに変更が ありません。」というメッセージが表示される (#6190486)	47
このリリースの Delegated Administrator でユーザーのログイン ID を編集できない (#6178850)	47
詳細検索機能が組織に対して正しい結果を返さない (#5094680)	47
「新しい組織を作成」ウィザードの「概要」ページに組織詳細のすべてが表示されない (#5087980)	48
 Net Connect のインストール	48
 Portal Server のインストール	48
Portal Server のインストールおよびアンインストールが、ハングアップしているように 見える (5106639)	48
マルチセッションインストールでゲートウェイのリダイレクトが行われぬ (4971011) ...	48
 共有コンポーネントに関する問題点	49
インストール後の設定変更により、SUNWcacaocfg について pkgchk が失敗する (6195465)	49
インストーラは、Tomcat 4.0.1 から Tomcat 4.0.5 へアップグレードしない (6202992)	49
Sun Java Web Console 設定スクリプトが SUNWtcatu パッケージをアップグレード しない (6202315)	49

Sun Cluster のインストール	49
JDKM および Common Agent Container パッケージが「scinstall -r」で削除される (5077985)	49
SunPlex Manager インストールモジュールがサポートされていない (4928710)	49
Sun Cluster HA 管理サーバーエージェントを CD からインストールできない (6212471)	50
Sun Cluster HA Application Server Agent は Application Server 8.1 および HADB 8.1 を サポートしない (6212333)	50
以前のバージョンの Directory Server 用 Sun Cluster データサービス (特定の ID なし)	50
Oracle Parallel Server/Real Application Clusters 用の Sun Cluster データサービスが、 Sun Cluster 3.1 CD からインストールされない (特定の ID なし)	50
Sun Cluster Agent がシステムに存在している場合、インストーラが Sun Cluster Agent の 追加インストールを許可しない (特定の ID なし)	50
Web Server のインストール	51
Web Server インストールディレクトリに以前にインストールしたバージョンのファイルが 格納されている場合、Web Server のインストールは失敗する (特定の ID なし)	51
ローカライズに関する問題点	51
Delegated Administrator: 「利用可能な言語」リストの機能が明確でない (#6234120)	51
Delegated Administrator: 「この組織はすでに存在しています。」というエラーメッセージが ローカライズされていない (#6201623)	51
「カスタム設定」インストーラ画面が、不正なテキストレイアウトで表示されることがある (6210498)	51
すべてのロケールでインストールする場合、「あとで設定」オプションを使用できない (6206190)	51
既知の問題および制限事項: アンインストール	52
Web Server および Application Server のデフォルトのインストールディレクトリの誤り (6197056)	52
アンインストーラがハングアップし、パッケージのすべてを削除しない (5091416)	52
Sun Cluster コンソールをアンインストールするとロケールパッケージが削除される (4994462)	53
既知の問題: Linux の場合	54
Message Queue が Java ES インストーラでインストールされている場合、アン インストールにアンインストーラが必要 (特定の ID なし)	54
ライブラリの共有コンポーネントへのリンクの切断による、Directory Server の インストールに関する問題 (6199933)	54
savestate ファイルが表示される (5062553)	55
Instant Messaging Server を別のセッションでインストールできない (6175419)	55
Red Hat Linux 3.0 上で Directory Server を設定できない (5087845)	55
インストール時にアンインストーラ RPM がインストールされないことがある (5060658)	55
Linux 上での NSPR と NSS の Message Queue による C-API 使用 (特定の ID なし)	55

正常にインストールされた後、インストーラの最後のページに java 例外エラーが 表示される (5052226、#5041569)	56
一部のロケールでは、インタフェースのウィンドウの幅が狭すぎる (4949379)	56
ユーザーがインストーラを終了しても、Directory Server と管理サーバーが動作を続行する (5010533)	56
インストーラで「ようこそページ」が表示されるまでに 3 ~ 4 分かかる (5051946)	56
日本語および韓国語のロケールで、グラフィカルインストーラのサマリーページが空白に なることがある (5043169)	57

Sun Java Enterprise System リリースノート

2005Q1

Part No. 819-0815

このリリースノートには、Sun Java™ Enterprise System 2005Q1 がリリースされた時点で入手可能な重要な情報が記載されています。既知の制限事項と問題点、技術情報、およびその他の情報が含まれています。Java Enterprise System の使用を開始する前に、このリリースノートをお読みください。

このリリースノートの最新版は、Java Enterprise System マニュアルの Web サイト <http://docs.sun.com/app/docs/prod/entsys?l=ja> で参照できます。ソフトウェアをインストールおよび設定する前、およびそれ以降も定期的にこの Web サイトをチェックして、最新のリリースノートと製品マニュアルを確認してください。

すべてのコンポーネント固有の情報は、各コンポーネントのリリースノートに記載されています。

コンポーネントのリリースノート

以下のコンポーネントのリリースノートは、次の場所で参照できます。

http://docs.sun.com/app/docs/coll/entsysrn_05q1?l=ja

- Sun Java System Access Manager 6 2005Q1
- Sun Java System Administration Server 5 2005Q1
- Sun Java System Application Server Enterprise Edition 8 2005Q1
- Sun Java System Calendar Server 6 2005Q1
- Sun Java System Directory Proxy Server 5 2005Q1
- Sun Java System Directory Server 5 2005Q1
- Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q1
- Sun Java System Message Queue 3 2005Q1, Enterprise および Platform Edition
- Sun Java System Messaging Server 6 2005Q1
- Sun Java System Portal Server 6 2005Q1
- Sun™ Cluster 3.1 9/04
- Sun Java System Web Server 6.1 SP4 2005Q1

このリリースノートで紹介されているサードパーティの URL を参照すると、追加および関連情報を入力できます。

注 Sun は、このリリースノートに記載されたサードパーティの Web サイトの有効性および有用性に関して責任を負いません。Sun は、これらのサイトまたはリソースで利用可能な内容、広告、製品、他の資料に関し、それらを保証することも、責任や義務を負うこともありません。Sun は、これらのサイトやリソースで利用可能な内容、製品、またはサービスを使用または信頼することに起因するいかなる直接的または間接的な損害についても責任を負いません。

リリースノート改訂履歴

表 1 改訂履歴

日付	変更内容
2005 年 4 月	非推奨に関する注意事項、Messaging Server に関する問題点、マニュアルの正誤表
2005 年 2 月	商用リリース版
2004 年 11 月	ベータ版

Java Enterprise System 2005Q1 について

この節の構成は次のとおりです。

- [このリリースで追加された新機能](#)
- [ハードウェアおよびソフトウェアの要件](#)

このリリースで追加された新機能

システムレベル

- プラットフォームのサポート
 - Solaris™ 8 SPARC®
 - Solaris 9 SPARC および x86
 - Solaris 10 SPARC および x86 (Zones サポートを含む)
 - Linux Red Hat WS/AS/ES 2.1 U2 および Linux Red Hat WS/AS/ES 3.0 U1
- Monitoring Agent (Instant Messenger Server の監視を含む)

次のコンポーネントの詳細は、それぞれのリリースノートを参照してください。リリースノートは、以下で参照できます。http://docs.sun.com/app/docs/coll/entsysrn_05q1?l=ja

表 2 Java Enterprise System コンポーネントの新機能

コンポーネント製品	機能
Access Manager	<ul style="list-style-type: none"> • 製品名が Identity Server から Access Manager に変更されました • 新たに、Web コンテナ BEA WebLogic 8.1 SP2 および IBM WebSphere Application Server 5.1 をサポートします • 新しい認証モジュール: Java Database Connectivity (JDBC)、Mobile Station ISDN (MSISDN)、Active Directory、および Security Assertion Markup Language (SAML) • ポリシー管理に、HttpURLResourceName という新しいリソース名プラグインができました <p>コンソールの拡張機能:</p> <ul style="list-style-type: none"> • オブジェクトの 1 つまたは複数の属性の表示による、ナビゲーション区画への各オブジェクトタイプの表示のカスタマイズ • ナビゲーション区画ドロップダウンメニューへの新しいオブジェクトタイプの追加 (たとえば、プリンタまたはビルドのエントリの追加)

表 2 Java Enterprise System コンポーネントの新機能 (続き)

コンポーネント製品	機能
	<p>連携管理:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Liberty Alliance Project (LAP) Name Identifier Mapping Protocol のサポート • LAP Identity Web Services Framework (ID-WSF) Discovery Service Specification, Version 1.1 のサポート • LAP ID-WSF Authentication Service Specification のサポート • LAP Metadata Description および Discovery Specification のサポート • LAP Liberty Identity Federation Framework (ID-FF) Extended Profiles のサポート • Dynamic Identity Provider Proxying • Affiliation Federation • One-time Federation • Name Identifier Mapping Profile • Name Identifier Encryption Profile <p>Client SDK:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Java アプリケーション開発者による Access Manager との統合を向上させるための、SDK パッケージの認証、サービス管理、ユーザー管理、SAML、ポリシークライアント、およびセッションの各コンポーネントへの再編成 • serverconfig.xml ファイルへの依存性の解消および jar ファイルのフットプリントの縮小 <p>Application Server 8.1 を Web コンテナとして調整するためのパフォーマンスチューニングスクリプトが使用できます</p>
管理サーバー	<ul style="list-style-type: none"> • 新機能なし
Application Server	<ul style="list-style-type: none"> • JSEE 1.4 サポート • 高パフォーマンスおよびスケーラビリティ • 高可用性 • JavaServer Faces 1.1 サポート • JavaServer Pages Standard Tag Library 1.1 サポート

表 2 Java Enterprise System コンポーネントの新機能 (続き)

コンポーネント製品	機能
Calendar Server	<ul style="list-style-type: none"> 自動バックアップ: csstored サービスは、現在、start-cal の発行時に起動するサービスです。正しく機能するためには、設定を実行する必要があります 読み取り専用データベース: カレンダーデータベースに対して読み取りのみを行い、更新または削除は行わないように Calendar Server を設定できます。これは、データの破壊が疑われるが本番稼働での作業にデータベースを常に使用できるようにしておかなければならない場合に、推奨します。この場合、更新または削除はできません。 ユーザー管理ユーティリティ名の変更: ユーザー管理ユーティリティ (コマンド行ユーティリティ) は、Delegated Administrator ユーティリティと呼ばれるようになりました Delegated Administrator GUI: これは新しい Delegated Administrator GUI ですが、2005Q1 リリースの Calendar Server はサポートしません ディレクトリ作成スクリプトのインストールの変更: インストール後の設定プログラムは、Java Enterprise System インストーラで別々にインストール可能なコンポーネントになりました。Calendar Server のインストールではバンドルされなくなりました
Directory Proxy Server	<ul style="list-style-type: none"> 新機能なし
Directory Server	<ul style="list-style-type: none"> Directory Server 5.2 2005Q1 より前のバージョンの Directory Server では、エントリの名前を変更できませんでした。Directory Server 5.2 2005Q1 では、エントリについての、名前の変更および削除ができます。 レプリカごとの更新の順序を識別するための旧バージョン対応更新履歴ログの拡張
Instant Messaging	<ul style="list-style-type: none"> Instant Messaging クライアントの更新および改善 XMPP、IETF Instant Messaging および Presence 標準プロトコル 監視機能の拡張 ウォッチドッグユーティリティによる監視 ウォッチドッグユーティリティの状態の確認 ウォッチドッグユーティリティの開始および停止 Instant Messaging サーバーの監視

表 2 Java Enterprise System コンポーネントの新機能 (続き)

コンポーネント製品	機能
Message Queue	<ul style="list-style-type: none"> • 『技術の概要』の新規作成 • 『管理ガイド』の構成の変更 • 『Developer Guide for Java Clients』の構成の変更 • 『Developer Guide for C Clients』の構成の変更 • Linux インストール上の変更 : • 新たな RPM の名前 • 新たなインストール場所 • Dead Message キュー • 非通知モード • 接続の失敗の検出 (クライアントの Ping) • クライアントメッセージ本体の圧縮 • JMS リソースアダプタの変更 • 64 ビット C-API のサポート • -p/-password コマンドの非推奨 • C-API 証明書管理 • C-API 基本認証サポート • 新しいサンプルアプリケーション (MQPing)
Messaging Server	<ul style="list-style-type: none"> • Sun Java System Communications Services 6 2005Q1 • Secure/Multipurpose Internet mail Extension (S/MIME) を、Sun Java System Communications Express Mail によりサポート • Internet Content Adaptation Protocol (ICAP) で動作するスパム対策およびウイルス対策プログラムのサポート • ログ機能の拡張
Portal Server	新機能なし

表 2 Java Enterprise System コンポーネントの新機能 (続き)

コンポーネント製品	機能
Sun Cluster	<ul style="list-style-type: none"> • グローバルハートビートパラメータの変更 • SPARC: VxVM 4.0 および VxFS 4.0 のサポート • Common Agent Container のサポート • JumpStart インストール方法の変更 • scversions コマンド • 16 ノードサポート • データサービスのための IPv6 サポート • リソースグループ間およびリソース間の依存関係の拡張 • オンライン HAStoragePlus リソースの変更 • SPARC: Sun Cluster 用の Solaris Volume Manager のサポート、および Oracle Real Application Clusters 用の Sun Cluster サポート • SPARC: Sun StorEdge QFS のサポート、および Oracle Real Application Clusters 用の Sun Cluster サポート • SPARC: Oracle Real Application Clusters Instances の自動的な起動およびシャットダウン • 新しくサポートされるデータサービス (SPARC Platform Edition)
Web Server	新機能なし

ハードウェアおよびソフトウェアの要件

注 現時点の予定では、Solaris 8 用 Java Enterprise System の新規バージョンの出荷は 2005 年 6 月 30 日以降中止されます。これにより、2005 年 6 月 30 日以前に出荷された Java Enterprise System のサポート期間に影響することはありません。Solaris 8 上で Java Enterprise System を実行している場合は、移行計画を開始することをお勧めします。

表 3 Java ES の完全インストールのためのハードウェアおよびソフトウェアの要件

オペレーティングシステム	ディスク容量	RAM
Solaris SPARC (Ultra Enterprise™ 250)	6096M バイト	4096M バイト
Solaris x86 (Intel Pentium P4 1GHz / AMD Opteron 248 (/ Sun v20/40/60z))	6096M バイト	4096M バイト

表 3 Java ES の完全インストールのためのハードウェアおよびソフトウェアの要件 (続き)

オペレーティングシステム	ディスク容量	RAM
Linux (Intel Pentium P4 1GHz / AMD Opteron 248 (/ Sun v20/40/60z))	6096M バイト	4096M バイト

次の表で、コンポーネントごとの要件の一覧を示します。

表 4 コンポーネントのディスクインストール領域と RAM 要件

コンポーネント	インストール用の最小限のディスク容量と RAM 要件
Access Manager	250M バイトのディスク容量 (Access Manager および関連するアプリケーション用)、512M バイトの RAM
管理サーバー	バイナリ用の 50M バイトのディスク容量。デフォルトでは、バイナリのほとんどは /usr にあります。管理サーバーでは、データのために必要なディスク容量はなく、ログのために必要なディスク容量は限定的です。デフォルトでは、ログおよびデータベースは、/var/opt にあります
Application Server	Sun Java System Studio 使用時: 500M バイトのディスク容量、512M バイトの RAM
Calendar Server	1G バイトのディスク容量 (本稼働配備の場合) または 500M バイト (評価の場合)、256M バイト ~ 1G バイトの RAM (本稼働の場合) または 128M バイトの RAM (評価の場合)
Directory Server	バイナリ用の 200M バイトのディスク容量。デフォルトでは、バイナリのほとんどは /usr にあります。評価稼働の構成の場合、ログおよびデータベース用の 1.2G バイトのディスク容量。デフォルトでは、ログおよびデータベースは、/var/opt にあります。最大 25,000 エントリで構成され、写真などのバイナリ属性を含まない本稼働への試験配備の場合は、さらに 4G バイト
Directory Proxy Server	300M バイトのディスク容量、256M バイトの RAM
Instant Messaging	300M バイトのディスク容量、256M バイトの RAM
Messaging Server	1G バイト (本稼働配備の場合) または 500M バイト (評価インストールの場合)、1G バイトの RAM (本稼働システムの場合) または 256M バイトの RAM (評価インストールの場合) サイトのサイズに応じ、メッセージストア、データベース設定ディレクトリ、ログファイル用の十分な容量が必要
Message Queue	8M バイトのディスク容量、128M バイトの RAM
Portal Server、Portal Server SRA	1G バイトのディスク容量、1.2G バイトの RAM (本稼働配備の場合) または 512M バイト (評価の場合)

表 4 コンポーネントのディスクインストール領域と RAM 要件 (続き)

コンポーネント	インストール用の最小限のディスク容量と RAM 要件
Sun Cluster 3.1 9/04 (ノード単位)	512M バイトのディスク容量 (スワップスペース用)、512M バイト (/globaldevices 用)、20M バイト (Volume Manager 用)、また 128M バイトの RAM に加え、ノードの通常のメモリ要件の 10% の追加が必要
Web Server	256M バイトのディスク容量、64M バイトの RAM

ディスク容量および RAM 要件の詳細は、各コンポーネントのリリースノートを参照してください。

Solaris ソフトウェアグループの要件

Java Enterprise System のインストールには、ALL および OEM のソフトウェアグループが必要です。

Java 2 Standard Edition の要件

Java Enterprise System は、Sun Microsystems により Java™ 2 プラットフォーム、Standard Edition (J2SE™ プラットフォーム) 1.5_01 で使用できることが検証されています。

Java Enterprise System 2005Q1 には、適切なバージョンの J2SE が組み込まれています。

使用しているシステムにすでに J2SE 1.5_01 実行時環境パッケージ SUNWj5rt がインストールされていて、J2SE 1.5_01 開発ツールパッケージ SUNWj5dev がインストールされていない場合は、Java Enterprise System をインストールする前にこの開発ツールパッケージをインストールしてください。このパッケージには、Java Enterprise System に必要ないくつかの機能が含まれています。使用しているシステムにインストールされている J2SE のバージョンを確認する方法と、Java Enterprise System をインストールする前にシステムを準備する方法については、<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0808?l=ja> にある『Java Enterprise System インストールガイド』を参照してください。

Java Enterprise System のインストール後に Solaris 9 Update を適用する

Java Enterprise System がすでにインストールされたシステムに Solaris 9 Update を適用した後で、Java 2 Standard Edition (J2SE) の Java Enterprise System インストールが完了していること、およびバージョンが適切であることを確認する必要があります。以下に、実行する必要がある 3 つの手順の概要を説明します。

1. J2SE インストールについての情報を収集します (「[J2SE インストールについての情報を収集する](#)」を参照)。
2. J2SE インストールを更新する必要があるかどうかを確認します (「[J2SE の更新が必要かどうかを確認する](#)」を参照)。
3. 必要に応じ、Java Enterprise System が使用する J2SE インストールを更新します。

インストールの更新方法は、Java Enterprise System の使用する J2SE インストールの位置により異なります。

- /usr 内の J2SE インストールを更新する (「/usr 内の J2SE インストールを更新する」を参照)。
- 他の場所にある J2SE インストールを更新する (「別の場所の J2SE インストールを更新する」を参照)。

▶ J2SE インストールについての情報を収集する

1. シンボリックリンク /usr/jdk/entsys-j2se を検査して、Java Enterprise System が使用する J2SE インストールの位置を確認します。

```
# ls -l /usr/jdk/entsys-j2se
```

2. リンクの指し示す位置を書き留めておきます (例: /usr、/usr/jdk/.j2se1.5.0_01)。

3. Java Enterprise System の使用する J2SE インストールのバージョンを確認します。

```
location/j2se/bin/java -fullversion
```

location には、手順 2 で書き留めた位置 (例: /usr) を指定します。

4. バージョン番号を書き留めます。

5. pkginfo コマンドを使用して、Java Enterprise System に必要な各 J2SE パッケージインスタンスに関する情報を収集します。該当するパッケージを以下に示します。

```
SUNWj5dev      SUNWj5man      SUNWj5rtx
SUNWj5dvx      SUNWj5jmp
SUNWj5dmo      SUNWj5rt
```

注

SUNWj5dvx および SUNWj5rtx は、64 ビットサポートだけに必要なパッケージです。また、SUNWj5jmp は、日本語マニュアルページのサポートだけに必要なパッケージです。

必須パッケージごとに、次の手順を実行します。

- a. すべてのパッケージインスタンスに関する情報を表示します。

```
# pkginfo -l pkgname.*
```

pkgname は、パッケージの名前 (例: SUNWj5dev) です。

- b. pkginfo コマンドの出力を参照し、パッケージの情報を書き留めておきます。

- pkginfo コマンドでパッケージが見つからないとのメッセージが表示された場合は、その必須パッケージが不足していることを書き留めて、次のパッケージに進みます。

- `pkginfo` コマンドで単一のパッケージインスタンスの情報が表示される場合、`BASEDIR` 値が **手順 2** で書き留めた位置と一致することを確認してください。一致する場合は `PKGINST` 値を書き留め、次のパッケージに進みます。一致しない場合、そのパッケージが不足していることを書き留めて、次のパッケージに進みます。
- `pkginfo` コマンドで複数のパッケージインスタンスの情報が表示される場合、**手順 2** で書き留めた位置と一致する `BASEDIR` 値を持つインスタンスを見つけます。一致するインスタンスが見つかったなら、`PKGINST` 値を書き留めて次のパッケージに進みます。一致するインスタンスが見つからなかった場合、そのパッケージが不足していることを書き留めて次のパッケージに進みます。

注 同一の `BASEDIR` にインストールされているパッケージごとに、保持するパッケージインスタンスが異なります。たとえば、`SUNWj5dev.2` と `SUNWj5jmp` (インスタンス指示子 `.2` が無い) は、どちらも `BASEDIR /usr/jdk/.j2se1.5.0_01` を保持できます。J2SE インストールのパッケージへの接続に使用されるのは、パッケージインスタンス番号ではなく `BASEDIR` です。

▶ J2SE の更新が必要かどうかを確認する

次の条件のどれかが当てはまる場合、Java Enterprise System が使用する J2SE インストールを更新する必要があります。

- **22 ページの手順 4** で書き留めたバージョンが 1.5 より小さい。
- **22 ページの手順 4** で書き留めたバージョンが 1.5 以上である。
- **22 ページの手順 5** を実行したときに、必須パッケージが 1 つ以上不足していることがわかった場合。

Java Enterprise System の使用する J2SE インストールの更新が必要な場合に実行する手順は、Java Enterprise System が使用する J2SE インストールの位置によって異なります。

- `/usr` の場合は、「[/usr 内の J2SE インストールを更新する](#)」を参照。
- 他の場所の場合は、「[別の場所の J2SE インストールを更新する](#)」を参照。

▶ /usr 内の J2SE インストールを更新する

1. スーパーユーザーでログインしていない場合は、`su` コマンドを使用してスーパーユーザーになります。
2. ネットワーク経由またはシステム内で Java Enterprise System 2005Q1 ディストリビューションにアクセスできない場合は、ディストリビューション CD または DVD を挿入します。
3. J2SE パッケージを含む Java Enterprise System 2005Q1 ディストリビューション内のディレクトリに移動します。

```
# cd dist-base/Solaris_arch/Product/shared_components/Packages
```

dist-base には Java Enterprise System 2005Q1 ディストリビューションへのベースパスを、*arch* にはシステムのアーキテクチャ (sparc または x86) を指定します。

4. J2SE に依存するサービスを停止します。
5. システムをシングルユーザーモードに設定します。
6. `pkgrm` コマンドを使用して [22 ページの手順 5](#) で書き留めた既存のパッケージインスタンスを削除し、`/usr` を `BASEDIR` に設定します。パッケージインスタンスの削除は、次の順序で実行します。

1. `SUNWj5rtx`
2. `SUNWj5dvx`
3. `SUNWj5jmp`
4. `SUNWj5dmo`
5. `SUNWj5man`
6. `SUNWj5dev`
7. `SUNWj5rt`

次に例を示します。

```
# pkgrm SUNWj5dmo SUNWj5man SUNWj5dev SUNWj5rt
```

7. Java Enterprise System 2005Q1 で検証済みの J2SE バージョン用のパッケージを追加します。

```
# pkgadd -d . SUNWj5rt SUNWj5cfg SUNWj5dev SUNWj5man SUNWj5dmo SUNWj5dvx  
SUNWj5jmp SUNWj5rtx
```

`SUNWj5dvx` および `SUNWj5rtx` は、64 ビットサポートだけに必要なパッケージです。また、`SUNWj5jmp` は、日本語マニュアルページのサポートだけに必要なパッケージです。

8. システムをマルチユーザーモードに復元します。
9. J2SE に依存するサービスを起動します。

► 別の場所の J2SE インストールを更新する

1. スーパーユーザー (root) でログインしていない場合は、`su` コマンドを使用してスーパーユーザーになります。
2. カスタマイズされたインストール管理ファイルを作成し、デフォルトでない J2SE のインストール位置を指定します。
 - a. デフォルトのインストール管理ファイルのコピーを作成します。

```
# cp /var/sadm/install/admin/default /tmp/admin-file
```

- b. ファイル `/tmp/admin-file` を編集し、その `basedir` 値をカスタマイズします。次の行
`basedir=default`

の `default` を、[22 ページの手順 2](#) で書き留めた Java Enterprise System が使用する J2SE インストール位置に変更します。次に例を示します。

```
basedir=/usr/jdk/.j2se1.5.0_01
```

ファイルの他の値は変更しないでください。

3. ネットワーク経由またはシステム内で Java Enterprise System 2005Q1 ディストリビューションにアクセスできない場合は、ディストリビューション CD または DVD を挿入します。
4. J2SE パッケージを含む Java Enterprise System 2005Q1 ディストリビューション内のディレクトリに移動します。

```
# cd dist-base/Solaris_arch/Product/shared_components/Packages
```

`dist-base` には Java Enterprise System 2005Q1 ディストリビューションへのベースパスを、`arch` にはシステムのアーキテクチャ (`sparc` または `x86`) を指定します。

5. J2SE に依存する Java Enterprise System サービスを停止します。
6. `pkgrm` コマンドを使用して、[22 ページの手順 5](#) で書き留めた、Java Enterprise System の使用する J2SE インストール位置に一致する既存の BASEDIR を持つパッケージインスタンスを削除します。パッケージインスタンスの削除は、次の順序で実行します。

1. `SUNWj5rtx`
2. `SUNWj5dvx`
3. `SUNWj5jmp`
4. `SUNWj5dmo`
5. `SUNWj5man`
6. `SUNWj5dev`
7. `SUNWj5rt`

次に例を示します。

```
# pkgrm SUNWj5rtx SUNWj5dvx SUNWj5jmp SUNWj5dmo.2 SUNWj5man.2 SUNWj5dev.2
SUNWj5rt.2
```

7. Java Enterprise System 2005Q1 で検証済みのバージョンの J2SE 用パッケージを追加します。その際、カスタマイズしたインストール管理ファイルを必ず使用するようになります。

```
# pkgadd -a /tmp/admin-file -d . SUNWj5rt SUNWj5cfg SUNWj5dev SUNWj5man
SUNWj5dmo SUNWj5dvx SUNWj5jmp SUNWj5rtx
```

`SUNWj5dvx` および `SUNWj5rtx` は、64 ビットサポートだけに必要なパッケージです。また、`SUNWj5jmp` は、日本語マニュアルページのサポートだけに必要なパッケージです。

J2SE に依存する Java Enterprise System サービスを起動します。

非推奨に関する注意事項

- Calendar Express は、Communications Express を優先して、非推奨とされていました。ユーザーインターフェースを Calendar Express に基づいてカスタマイズしていたユーザーはすべて、できるだけ早く新しいユーザーインターフェースに移す計画を立てることをお勧めします。

サポートされない機能

- Sun Fire システムでは Net Connect はサポートされない。
- Sun Cluster および Sun Cluster Agent は、Solaris 10 では使用できない。
- Sun Cluster、Sun Cluster Agent、および Net Connect は、Linux では使用できない。
- Sun Cluster アップグレードはサポートされない。
- HA Sun Java System Application Server は Application Server 8 2005Q1 をサポートしない。
- HA Sun Java System Application Server EE は Application Server 8 Enterprise Edition 2005Q1 をサポートしない。

重要なパッチ情報

使用するコンポーネント用のパッチ情報については、「[コンポーネントのリリースノート](#)」を参照してください。

また、<http://sunsolve.sun.com> にアクセスし、「推奨パッチクラスタ」に移動してドロップダウンメニューから「Java Enterprise System Component Patches」を選択します。オペレーティングシステムのパッチ要件が変更されたり、Java Enterprise System コンポーネント用のパッチが利用可能になった場合に、SunSolve から更新が入手可能になります。最初は推奨パッチクラスタの形式で入手します。

このリリースで修正されたバグ

次の表では、Java Enterprise System 2005Q1 で修正されたバグを説明しています。

表 5 このリリースで修正されたバグ

バグ番号	説明
インストールに関するさまざまな問題	
5077683	インストールディレクトリの一部にアクセスできない
5104637	共有コンポーネントのインストールの失敗により、後続のエラーが発生します
5105238	Application Server への Access Manager のインストール時にデフォルトが選択されません
6176619	インストールのサマリレポートのページが完全ではありません
6179041	インストール完了後に slapd プロセスが実行します
5041865	アンインストーラのアップグレードが必要という不正なメッセージが表示されます
5032211	Portal Server インストール用の Access Manager の値が必要です
4932843	十分なディスク容量がないと、Directory Server および管理サーバーのインストールが失敗します
5073647	Explorer コンポーネントがインストーラで設定されない
6179707	「あとで設定」モードでは、Application Server、Web Server および Directory Server のインストールが失敗します
6183147	マルチノード環境では、Directory Server および Application Server のインストールに問題が発生します
6184053	コンポーネント選択ページに、誤ったバージョンのコンポーネントが表示されます
6178450	インストーラは、Solaris 9 で SUNWjhrt をアップグレードできません
5110186	インストーラは、不正なバージョンの Message Queue を検出します
6179033	Solaris 8 でインストールが失敗します
6173840	J2SE 1.5_01 へのアップグレードで問題が発生します
5041686	最後のページ上の「インストールガイド」ボタンが機能しません
4918824	インストーラは、部分的にインストールされた製品パッケージを検出しません
4922208	インストーラの「ようこそページ」で「次へ」のボタンが表示されないことがあります
4944839	インストーラによって SUNWj3dmx パッケージがアップグレードされません

表 5 このリリースで修正されたバグ (続き)

バグ番号	説明
Access Manager のインストール	
5087959	Portal Server で Access Manager SDK が選択された場合、インストーラは Web コンテナを必要とします
5067574	インストーラは、シングルドットの付いた FQDN を用いて Access Manager をインストールできません
6174728	SPARC バイナリは x86 でインストールされます
5110360	大文字および小文字が混在しているルートサフィックスにより、Access Manager ログインへのアクセスで問題が発生します
6178827	Opteron への Access Manager のインストール後、Web Server 起動時に JSS 関連の警告が表示されます
6174728	x86 で Access Manager 用の新規の C アプリケーションを書き込めません
6176934	Access Manager サブコンポーネントのサブセットをインストールできません
5045635	インストーラが既存のコンソールの値を使用しません
5022925	Access Manager のパスワードに特殊文字を使用できません
5035811	amadmin CLI 設定スクリプトで PATH に UNIX ユーティリティが存在することを想定しています
5038433	サードパーティ Web コンテナ上の Portal Server が同じホスト上の Access Manager と共存できません
5043294	Application Server の管理プロトコルが HTTPS の場合に Web アプリケーションの配備が失敗します
5045555	Directory Server の設定が失敗した後でユーザーがアンインストールを続行できません
5045680	Web Server ユーザーおよびグループが存在しないためにインストールが失敗します
5046393	is.state ファイルにパスワードがないため、既存のコンソールインストールが失敗します
5047710	Directory Server なしで Access Manager コンソールをインストールできません
5041968	Access Manager (Identity Server) を Java Enterprise System 2004Q2 にアップグレードできません
5048259	Application Server が稼働していない場合、Access Manager のアップグレードが失敗します
4959541	2 つの Access Manager (Identity Server) 管理サーバーコンソールが Directory Server を指している場合、その 1 つにアクセスできない
5013453	既存の DIT に対してインストールを行うとセキュリティホールができます
5013600	リモート SDK インストール時に、プロトコルホスト名およびポートが要求されません
4928865	root 以外の実行時ユーザーを使用すると、Access Manager が失敗します

表 5 このリリースで修正されたバグ (続き)

バグ番号	説明
4933712	Web Server インスタンスを nobody/nobody で実行すると、Access Manager が Web Server での配備に失敗します
管理サーバー	
4984359	管理サーバーのインストール後、*.ldif ファイルが見つからない
5086071	管理サーバーのリソースファイルタイプが見つからない
5088607	インストーラは Solaris 10 上で管理サーバーを設定しません
Application Server のインストール	
5043333	管理プロトコルが HTTPS の場合に、インストーラがハングアップする
6185306	Solaris 10 でインストールが失敗します
5079673	HADB が機能しません
6180399	ファイルシステムがフルであるために Application Server が停止します
5096295	コマンドをリモートで実行できません
5099421	衝突するパッケージが検出されません
5081076	Solaris 10 で Application Server を設定できません
Calendar Server のインストール	
5013230	Universal Web Client により「カレンダーを使用できません」というエラーが生成されます
Directory Server のインストール	
6175580	Solaris 10 で Directory Server を設定できません
6177788	JDK ファイルが見つかりません
Instant Messaging のインストール	
6182423	必要なコンポーネントが選択されない場合、インストーラがハングアップします
Message Queue	
5060892	Message Queue のインストールエラー
6186336	インストーラは、以前のバージョンの Message Queue を検出しません
Messaging Server の設定	
5015614	単一の Messaging Server 設定を HA 環境の複数ノードで共有できません
4946314	高可用性環境で Messaging Server にアクセスできません
Portal Server のインストール	
6179802	「メールを起動」リンクが機能しません

表 5 このリリースで修正されたバグ (続き)

バグ番号	説明
6179806	Communications Services Express Calendar が表示されません
6179807	Communications Services Express Calendar が表示されません
Portal Server SRA に関する問題点	
5047334	Portal Server Mobile Access のアップグレードが Application Server でサポートされません
4929710	カレンダーのリンクに Portal Server SRA 経由でアクセスできません
Web Server の設定	
4756206	ユーザーがログインした後、管理コンソールにエラーメッセージが表示されます
Sun Cluster のインストール	
5109313	SUNWscspmr が正しくインストールされません
6180646	SUNWjato がないために、SunPlex Manager で問題が発生します
ローカライズに関する問題点	
6177339	GUI インストーラには JDK アップグレードのページがありません
5053554	Web Server 韓国語ロケールで Web Server のインストール時に root/root を使用する必要があります
4855688	server.xml の Application Server ロケールエントリが常に en_US です
5026804	すべての UTF-8 ロケールで「カスタム設定」ウィンドウが不正なレイアウトで表示されます
5011497	英語以外のロケールで Access Manager のインストールが失敗します
アンインストールに関する問題点	
6180345	Application Server のアンインストールが、サイレントモードで失敗します
5047760	ダウンロードされたアンインストールで、最後にインストールされたコンポーネントだけがアンインストールされます
5044436	単一セッション内での Portal Server と Identity Server のアンインストールが失敗します
Linux に関する問題点	
5039744	進捗ダイアログが表示されると、インストーラがハングアップします
5057278	Application Server の設定ファイルは、デフォルト以外の設定ディレクトリではエラーになります
5056218	Portal Server の multiserverinstance スクリプトを実行できません
5047710	テキストベースのインストーラを使用して Identity Server スタックコンソールのサブセットをインストールすることができません
5045669	インストーラがコンポーネントの設定エラーを通知しません

表 5 このリリースで修正されたバグ (続き)

バグ番号	説明
5051888	コンポーネント選択ページの一部が表示されません
5032211	グラフィカルインタフェースのインストーラで、不要な Access Manager (Identity Server) のインストール情報を求められます
5041686	最後のページ上の「インストールガイド」ボタンが機能しません
5048374	インストール中に <code>ps -ef</code> コマンドを実行すると、管理者のパスワードが表示されます
5049320	インストーラで、警告なしに JDK が自動的にアップグレードされます
5044436	単一セッション内での Portal Server と Identity Server のアンインストールが失敗します
5046805	アンインストールの出力に Directory Manager のパスワードが表示されます
5051063	SRA コンポーネントのインストール中に、Portal Server の再配備が失敗する
5045689	すべてのロケールで英語版のアンインストールが実行されます
5052770	インストールの最終段階でオンライン登録ダイアログボックスがハングアップします
5055412	インストーラで Portal Server の SRA の依存関係が通知されません
5090801	Application Server の pointbase スクリプトが設定されません
6179683	製品名がインストーラのメッセージファイルに表示されます
6178335	Directory Server の管理コンソールを起動できません
5059771	Portal SRA ゲートウェイをインストールできません
4928865	root 以外の実行時ユーザーを使用すると、Application Server が失敗します
5031306	すべてのロケールで Netlet と Proxylet が英語で表示される
4957879	インストーラで、既存のコンポーネントが通知されません
5043333	Application Server が HTTPS を使用する場合に、インストーラがハングアップします
5047760	ダウンロードディストリビューションアンインストールで、最後にインストールされたコンポーネントだけがアンインストールされます
5052944	Perl パッケージがない場合に Directory Server の設定が失敗します
5050775	グラフィカルインストーラで、不要な Access Manager の情報を求められます

互換性の問題

- Sun Fire システムでは Net Connect はサポートされません。
- Message Queue:
 - Message Queue の次のメジャーリリースでは、クライアントのそのリリースとの互換性をなくしてしまう変更が組み込まれる可能性があります。この情報は、このような変更に合わせて準備しておくことができるようにするため、ここに記載されています。
 - これは、Sun Java System Message Queue の将来のリリースのうち、Sun One Message Queue 3.0.1 と下位互換性を持つことなる最後のリリースです。特に、Sun Java System Message Queue の将来のリリースでは、次の内容はサポートされなくなります。
 - 最新バージョンのブローカへの 3.0.1 クライアントの接続
 - 3.0.1 持続的ストアの最新バージョンへのアップグレード
 - 最新バージョンのブローカとの 3.0.1 ブローカのクラスタ化
 - 最新バージョンのブローカとの 3.0.1 プロパティファイル、ユーザーストア、アクセス制御リストなどの併用
 - これは、Sun Java System Application Server 7.X 用の「システム JMS メッセージングプロバイダ」としての統合をサポートすることになる、Sun Java System Message Queue の最後のリリースです。Sun Java System Message Queue の将来のリリースでは、Sun Java System Application Server 8.0 以上のみがサポートされます。
 - これは、SOAP ランタイムを含み Message Queue SOAP 管理によるオブジェクトをサポートする、Sun Java System Message Queue の最後のリリースです。
 - 将来のリリースでは、SOAP をサポートする Java 2 Standard Edition Platform のバージョンと連動する SOAP のみがサポートされます。
 - すべてのリリースの J2SE 1.3 に対する Sun Java System Message Queue クライアントのサポートは停止されます。J2SE 1.4 は引き続きサポートされます。
 - Sun Java System Message Queue の一部としてインストールされた個々のファイルの場所は、変わる可能性があります。これにより、いくつかの Message Queue ファイルの現在の場所に依存する既存のアプリケーションが中断される可能性があります。
 - 次のメジャーバージョンよりも古いバージョンの Message Queue を使用する Sun Java System Message Queue クライアントは、製品のそのバージョンで提供される新機能にアクセスできない可能性があります。

既知の問題および制限事項：インストール

Java Enterprise System インストーラを使用したインストール処理に関連する情報を次に示します。

インストールに関するさまざまな問題

複数のバージョンの `comm_dssetup.pl` が存在する (#6225803、6225809/6226161)

回避策

`comm_dssetup.pl` については、`/opt/SUNWcomds/sbin` にあるバージョンのみを使用します。ほかのバージョンはすべて無視します。

Solaris 10 上での Messaging Server のインストール時の FQDN エラー (特定の ID なし)

Solaris 10 上で Messaging Server をインストールする場合、`hostname` が完全指定ドメイン名ではないというエラーが表示されます。Solaris 10 は IPV6 をサポートします。`ipnodes` はホスト名を決定するパスで見つけられます。

回避策

`/etc/hosts` および `/etc/inet/ipnodes` の両方のファイルに FQDN を手動で追加します。

`/share` に十分なディスク容量がない (5099218)

`/share` が自動マウントディレクトリで何もマウントされていない場合、Sun Cluster Agent のインストール時にインストーラにより `/share` に十分な容量がないと通知されます。

回避策

`/share` のマウントを解除し、再度インストーラを実行します。

```
# umount /share
```

Access Manager が SSL を使用している場合、SSL 暗号化を使用して Portal Server を配備できない (6211026)

回避策

ありません。

サイレントモードの場合、インストーラは共有コンポーネントパッケージの一部をアップグレードしない (6208244)

サイレントモードでインストーラを実行した場合、`SUNWpr` および `SUNWtl` がアップグレードされません。

回避策

ありません。

Sun Cluster HA 環境では、Directory Server および Messaging Server、およびそれぞれ対応する管理サーバーをインストールできない (6210690)

Sun Cluster HA コンポーネントのインストール時に、SUNWasvr パッケージがインストールされます。システムにすでに SUNWasvr が存在する場合、Directory Server および管理サーバー、または Messaging Server および管理サーバーをインストールするときに衝突が発生します。

回避策

次の手順でコンポーネントをインストールします。

1. Sun Cluster を HA エージェントなしでインストールします。
2. Directory Server、Messaging Server、およびそれぞれの管理サーバーのための、ストレージリソースグループを作成します。
3. Directory Server、Messaging Server および管理サーバーをインストールします。
4. Directory Server および Messaging Server の、Sun Cluster HA Agent をインストールします。
5. インストールしたコンポーネントを設定します。

Application Server 7 を実行している場合、Access Manager で新規の WSRP Consumer Producer を作成できない (6202285)

Application Server 7 は、互換性のないバージョンの JAX 共有コンポーネントを使用します。Application Server 7 を実行している場合、Access Manager で新規の WSRP Consumer Producer を作成できません。このため、Application Server 7 で Portal Server および Access Manager を配備できません。

回避策

システム上にあるバージョンの Application Server 7 をインストールしている場合、またはあらかじめバンドルされているバージョンの Application Server 7 および Solaris 9 がインストール済みである場合、pkgrm を使用して次のパッケージを削除してから Java Enterprise System をインストールします。

```
# pkgrm SUNWasdem SUNWasu SUNWasr SUNWasac SUNWascmn SUNWasman  
# pkgrm SUNWiqdoc SUNWiqfs SUNWiqjx SUNWiqr SUNWiqu SUNWiquc
```

その後、次の順序で追加パッケージを削除します。

```
# pkgrm SUNWxrgprt SUNWxrprt SUNWxsrt SUNWjxap
```

次に、インストールに進みます。インストールが完了したら、pkgadd を使用してパッケージを手動で追加します。

インストールログメッセージは、常に有効であるとは限らない (特定の ID なし)

ログメッセージは常に有効であるとは限らないことに留意してください。たとえば、ある種のエラーが発生した後で、コンポーネント製品の (全部ではなく) 一部をインストールした後でも、「ソフトウェアがインストールされていません」というメッセージが表示されます。

インストーラが X11 ウィンドウサーバーに接続できない場合、サイレントインストールが失敗する (6182249)

この問題は、DISPLAY 変数を設定したが DISPLAY へのアクセス権限がない場合に、発生します。

回避策

次を実行し、DISPLAY の値の設定を解除します。

```
# unset $DISPLAY
```

一部の共有パッケージが Solaris 10 でインストールされない (6174538)

インストーラは、アップグレードの必要のある既存のパッケージについて通知しません。これによりアップグレードされるコンポーネントのインストールが失敗します。

回避策

次のパッケージについてあるかどうかを確認し、ある場合は手動で削除します。

```
NSPR
NSS
JSS
NSPR
NSPRD
ICU
ICUX
NSSU
NSSUX
NSSX
NSPRX
SASLX
```

管理サーバーのインストール時に、GUI インストーラで FQDN の入力求められる (5103675)

クラスタ環境のサーバーについては、完全指定ホスト名 (FQHN) が必要です。しかし、管理サーバーの設定時、GUI インストーラでは FQDN の入力求められません。代わりに物理ホスト名が使用されると、エラーが発生します。

回避策

usr/sbin/mpsadmserver configure コマンドを使用して管理サーバーを設定します。

「\${hostname}.domainname.com」に値を入力するよう求められます。そこで FQHN の値を入力します。

データサービス内の「Sun ONE」という表現は「Sun Java System」とすべきである (特定の ID なし)

Java ES アプリケーションのデータサービスの名前および説明で登場する「Sun ONE」という表現はすべて「Sun Java System」と読み替える必要があります。たとえば、「Sun Cluster data service for Sun ONE Application Server」は、「...for Sun Java System Application Server」と読み替えてください。

コンポーネント選択ページのコンポーネントの自動選択が混同する (4957873)

コンポーネント製品を選択すると、依存するコンポーネント製品をインストーラがすべて自動的に選択します。コンポーネント製品選択ページには、元のコンポーネント製品とともに依存関係にあるコンポーネント製品が選択されていることが示されません。

回避策

ありません。

CD インストール時にパスワードが画面に表示される (5020621)

CD インストール時に、管理パスワードを入力するとインストーラがパスワードをそのまま表示します。

回避策

最初に Solaris をインストールし、システムをリブートしてから CLI または GUI インストーラを使って Java Enterprise System をインストールします。

選択したコンポーネントに関する表示がページによって異なる (5033467)

無効な選択を示す「**」が、グローバルに実装されていません。

回避策

ありません。

Access Manager のインストール

ロードバランサまたは SSL オフロードで動作する Web Server の設定方法

Web Server をロードバランサに SSL ターミネーションが設定されている Access Manager の Web コンテナとして使用している場合は、次のマニュアルを参照して Web Server を設定してください。

<http://sunsolve.sun.com/search/document.do?assetkey=1-9-77007-1&searchclause>

SUNWxrpcrt パッケージと、Access Manager SOAPClient/JAXRPC サブレットとの互換性がない (6215206)

リモート Access Manager クライアント SDK の実行中、JAXRPC サブレットは例外をスローします。

回避策

ありません。

既存のコンソールのプロトコルを入力できない (5045612)

「Access Manager: Access Manager サービスを実行するための Web コンテナ (4 / 6)」ページの「既存コンソールを使用」オプションを使用すると、既存のコンソールの詳細を入力できます。ただし、このページにはコンソールプロトコル用のフィールドがありません。

Access Manager サービスが稼働中の Web コンテナと Access Manager コンソールが稼働中の Web コンテナが、同じプロトコル (`http` または `https`) を使用しなければならないということはありません。インストーラは、Access Manager サービスが稼働中の既存のコンソールとシステムが同じプロトコルを使用していると見なします。

回避策

「既存コンソール」(サーバーのみ) インストールを、2つのインストールセッションに分けて実行します。

1. 最初のインストールセッションでは、Web コンテナ (Application Server または Web Server) の「今すぐ設定」インストールを実行します。
2. 2番目のインストールセッションでは、Access Manager の「あとで設定」インストールを実行します。
3. 2番目のセッションが完了したら、Access Manager のユーティリティディレクトリに移動します。Solaris システムの場合の例を示します。

```
# cd AccessManager-base/SUNWam/bin/
```

`AccessManager-base` は、Access Manager のベースインストールディレクトリです。

4. `amsamplesilent` ファイルをコピーし、新規ファイル名を指定します。
5. `amsamplesilent` ファイルのコピーを編集して、コンソールプロトコルを含む設定情報を指定します。次に例を示します。

```
DEPLOY_LEVEL=6
CONSOLE_PROTOCOL=protocol-value
...
```

6. 編集した `amsamplesilent` ファイルを使用して `amconfig` スクリプトを実行します。次に例を示します。

```
# ./amconfig -s copy-of-amsamplesilent
```

`copy-of-amsamplesilent` は、`amsamplesilent` ファイルのコピーの名前です。

`amsamplesilent` ファイルおよび `amconfig` スクリプトの詳細は、『Access Manager 2005Q1 管理ガイド』を参照してください。

コンソールをみのインストール設定が失敗する (5047119)

インストールは、ローカルサーバーへのコンソールをみのインストール用 Web コンテナを設定しません。

回避策

コンソールをみのインストールを、2つのインストールセッションに分けて実行します。

1. 最初のインストールセッションでは、Web コンテナ (Application Server または Web Server) の「今すぐ設定」インストールを実行します。

2. 2 番目のインストールセッションでは、Access Manager 管理コンソールの「あとで設定」インストールを実行します。
3. 2 番目のセッションが完了したら、Access Manager のユーティリティディレクトリに移動します。Solaris システムの場合の例を示します。

```
# cd AccessManager-base/SUNWam/bin/
```

AccessManager-base は、Access Manager のベースインストールディレクトリです。

4. *amsamplesilent* ファイルをコピーし、新規ファイル名を指定します。
5. *amsamplesilent* ファイルのコピーを編集して、DEPLOY_LEVEL (コンソールのみの場合には 2)、CONSOLE_HOST、CONSOLE_PORT、SERVER_PORT 変数を含む、設定情報を指定します。
6. 編集した *amsamplesilent* ファイルを使用して *amconfig* スクリプトを実行します。次に例を示します。

```
# ./amconfig -s copy-of-amsamplesilent
```

copy-of-amsamplesilent は、*amsamplesilent* ファイルのコピーの名前です。

amsamplesilent ファイルおよび *amconfig* スクリプトの詳細は、『Access Manager 2005Q1 管理ガイド』を参照してください。

Web Server 上でインスタンスを作成すると例外がスローされる (5048518)

amconfig スクリプトを実行して Web Server 上に Access Manager の新規インスタンスを配備する際、新規インスタンスのインスタンス名がホスト名と同じでない場合、Web Server の Web コンテナ設定スクリプトにより例外がスローされます。また、新規インスタンス用の Access Manager 配備が完了しません。

回避策

Web Server 用の Access Manager 設定スクリプト (*amws61config*) を編集します。

1. Access Manager のユーティリティディレクトリに移動します。Solaris システムの場合の例を示します。

```
# cd AccessManager-base/SUNWam/bin/
```

AccessManager-base は、Access Manager のベースインストールディレクトリです。

2. *amws61config* スクリプトを編集します。configNewInstance() で、「addServerEntry \$WS61_HOST」行を「addServerEntry \$WS61_INSTANCE_HOST」に変更します。
3. *amconfig* スクリプトを再度実行して、Access Manager インスタンスを追加します。

pre61to62upgrade スクリプトが DB ベースのログを適正に処理しない (5042233)

Access Manager のアップグレード完了後、アップグレードログに DB ベースのログが適正に処理されなかったことが示されます。

回避策

ありません。現在のリリースの Access Manager アップグレードプロセスでは、DB ベースのログ機能がサポートされません。

Access Manager の最初のインスタンスのインストール (特定の ID なし)

このリリースの Access Manager では、Access Manager パッケージのインストールと、設定を分離しました。このリリースでは、Java Enterprise System インストーラを使用して Access Manager の最初のインスタンスをインストールする必要があります。

Directory Server の SSL が有効な状態で Access Manager 2005Q1 をインストールする (特定の ID なし)

Directory Server がインストール済みで SSL が有効な場合、Access Manager 2005Q1 のインストールが失敗します。Access Manager 2005Q1 をインストールするには、最初に Directory Server の SSL を無効にしてください。Access Manager のインストール完了後に、Directory Server の SSL を再度有効にします。

パスワードおよびルートサフィックスで単一引用符を使用できない (特定の ID なし)

Access Manager は、パスワード (amadmin など) および Directory Server ルートサフィックスでの単一引用符 (') の使用をサポートしません。ただし、円記号 (¥) はサポートします。

Directory Server 5.1 sp2 がパスワードのリセットを実装する場合、Access Manager のインストールが失敗する (4992507)

Directory Server 5.1 SP2 がユーザーの初回のログイン時にパスワードの変更を求めるように設定されている場合、Java Enterprise System インストーラの実行時に Access Manager 2005Q1 のインストールが失敗します。

回避策

Directory Server パスワードのリセットポリシーを「オフ」に設定します。

管理サーバーのインストール

Directory Server および管理サーバーを別々のセッションでインストールできない (5096114)

1 つのセッションで Directory Server をインストールしてから、別のセッションで管理サーバーをインストールする場合、まだインストールおよび設定が行われていないのにもかかわらず、管理サーバー用のボックスがすでにオンになっています。このため、管理サーバーのインストールおよび設定を実行できません。

回避策

Directory Server および管理サーバーを同じセッションでインストールします。または、管理サーバーを手動で設定する方法について、『Directory Server 管理ガイド』を参照してください。

Application Server のインストール

以前のバージョンの Application Server がシステムに存在する場合、インストールが失敗する (5110257)

以前のバージョンの Application Server パッケージがシステムに存在する場合、Java ES をインストールできません。

回避策

システム上に Application Server パッケージが存在しない状態にしてから、インストーラを実行します。

次のパッケージを手動で削除します。

```
SUNWasclg
SUNWasac
SUNWascmn
SUNWasdem
SUNWasdev
SUNWasman
SUNWaspx
SUNWasr
```

また、対応するローカライズパッケージを手動で削除します。

使用中のポートを選択するとインストールが失敗する (4922417)

回避策

ありません。

インストーラが、ユーザーが設定ページで入力したホスト名を認識しない (4931514)

インストーラは、Application Server の「サーバー名」の入力を要求します。ただし、テキストフィールドに何を入力しても、インストーラはマシンの実際のホスト名を使用します。

回避策

サーバー名がサーバーのホスト名と異なる場合は、スーパーユーザーになり、該当するドメインディレクトリ（「サーバールート」ディレクトリ）で次のように入力します。

```
# find . -type f -exec grep -l $HOSTNAME {} \;
```

次に、ファイルの内容を適切に変更します。

Directory Server のインストール

アンインストールしてから再インストールすると、Directory Server を設定できない (6223527)

Directory Server をアンインストールしてから再インストールする場合、Directory Server を設定できません。インストール時に、/var/opt が削除されません。このため、slapd が見つけられず、Directory Server を起動するときにエラーが記録されます。

回避策

Directory Server のアンインストール後、/var/opt を削除してから再インストールします。

Directory Server および管理サーバーを別々のセッションでインストールできない (5096114)

1 つのセッションで Directory Server をインストールしてから、別のセッションで管理サーバーをインストールする場合、まだインストールおよび設定が行われていないのにもかかわらず、管理サーバー用のボックスがすでにオンになっています。このため、管理サーバーのインストールおよび設定を実行できません。

回避策

Directory Server および管理サーバーを同じセッションでインストールします。または、管理サーバーを手動で設定する方法について、『Directory Server 管理ガイド』を参照してください。

Message Queue のインストール

Message Queue が Java ES インストーラでインストールされている場合、アンインストールにアンインストーラが必要 (特定の ID なし)

Solaris パッケージを直接削除した場合、次にインストーラを実行したとき、インストーラは Message Queue をまだインストールされていると見なし、正しく動作しません。

回避策

すでに手動で Message Queue パッケージを削除した場合は、アンインストーラを使用して Message Queue をアンインストールする必要があります。アンインストーラを実行し、削除する Message Queue コンポーネントを選択します。

Messaging Server のインストール

inetDomainstatus が削除済みの場合に msuserpurge が mailDomainStatus を削除済みに設定しない (#6245878)

ドメインが commadmin ユーティリティを使用して削除された場合、その mailDomainStatus は引き続きアクティブであるため、そのドメインを commadmin を使用してパージすることはできません。

回避策

ldapmodify を使用して、mailDomainStatus を「removed」に設定します。

不正な store.sub を修正するためのツールが必要である (#6206104)

次の Messaging Server パッチリリース (6.2 パッチ 1) では、reconstruct によって subscription.db 内の無効なメールボックス名を持つエントリが削除されます。また、mboxutil コマンドにより、エントリのリストから存在しないメールボックスが識別され、オプションで登録が取り消されます。

登録データベース内の破壊されたデータを削除するには、reconstruct に新しい -s オプションを付けて使用します。

```
reconstruct -s
```

オプションの意味は次のとおりです。

-s: 登録を修復する

存在しないフォルダをリストして登録を取り消すには、mboxutil で次のオプションを使用します。

```
mboxutil -S [-n [-f file] | -u -f file]
```

オプションの意味は次のとおりです。

-n: 個人用の存在しないメールボックスの登録をリストする

-u: 個人用の存在しないメールボックスの登録を取り消す

-f: file の入出力

不在返信テキストが保存時に壊れてしまう。ハードリターンが保持されない (#6199714)

次のパッチリリース (6.2 パッチ 1) では、MTA が \$\$ を行ブレークのペアと解釈して、自動返信テキストに表示します。自動返信テキストで文字のドル記号を使用したいお客様は、\ (バックスラッシュ) をご使用になることをお勧めします。たとえば、\$\$5.00 の代わりに \\$5.00 を使用してください。

Messaging Server と Directory Server を異なるマシン上にインストールする際の問題 (特定の ID なし)

回避策

1. Directory Server および管理サーバーを Directory Server のシステムにインストールおよび設定します。
2. 管理サーバーおよび Messaging Server を Messaging Server のシステムにインストールします。管理サーバーはインストール時に設定されますが、Messaging Server は設定されません。

3. Messaging Server を設定します。

スキーマ 2 のサポートを含む Messaging Server (および Directory Server) の使用 (4916028)

スキーマ 2 のサポートを含む Messaging Server を使用するためには、Access Manager と Directory Server をインストールする必要があります。現在のところ、Directory Server にスキーマ 2 のサポートを取り込むには、Access Manager をインストールする方法しかありません。

Access Manager が Web コンテナとして機能するには、Web Server (または Application Server) も必要とします。Access Manager が Directory Server と共にインストールされていない場合、Messaging Server から使用できるのはスキーマ 1 だけです。Java Enterprise System のインストール中はスキーマ 1 または 2 を選択できるオプションがないため、Access Manager をインストールして Directory Server を更新する必要があります。

Messenger Express/Communications Express

この節では、最新の Messenger Express/Communications Express の既知の修正済みの問題に対する、追加情報と回避策を記載します。

添付の保存が機能しないことがある (#6196347)

回避策

エンドユーザーがインストール後にブラウザキャッシュを消去し、ブラウザを再起動する必要がある可能性があります。

自動スペルチェックが削除された (#6192219)

メッセージを送信する前の自動スペルチェックは、新しい設定オプションを使って製品に再追加されています。

html/main.js ファイル内の次の行のコメントを解除して、メール作成ウィンドウと「オプション」メニューの「設定」タブにある「メッセージを送信する前にスペルをチェックする」チェックボックスを表示します。

```
// spellCheckBeforeSendFlag = true;
```

Internet Explorer ブラウザのユーザーには、スペルチェック機能を使用しないと決めている場合、重複メッセージが送信されることがわかる場合があります。

Delegated Administrator

この節では、Communications Services Delegated Administrator に関する既知の問題を記載します (以前のリリースでは、このコンポーネントはユーザー管理ユーティリティと呼ばれていた)。

全組織の「ドメイン状態」か「メールサービス状態」を変更すると、「ドメインのディスク制限容量」の値が失われる (#6239311)

この問題は、「ドメインのディスク制限容量」の値セットが任意の数値に設定されている全組織を編集し、「ドメイン状態」または「メールサービス状態」を「アクティブ」からその他の値（「非アクティブ」や「保持」など）に変更した場合に発生します。

メッセージは、組織のプロパティは正常に変更されたが、「ドメインのディスク制限容量」フィールドの値が無制限に設定されていて、組織の LDAP 属性 (mailDomainDiskQuota) が失われていることを示します。

回避策

「ドメインのディスク制限容量」フィールドの値を再設定し、組織のプロパティを保存します。

サーバーエラー。新規のユーザーを作成または既存のユーザーを編集しようとすると、管理者がログアウトされる (#6234660)

この問題は、多数のユーザーを含む組織の「ユーザー」ページを開いて、ページがまだ既存のユーザーを読み込んでいる間にユーザーを作成または編集しようとしたときに発生します。ページが読み込んでいる間、待機するよう求めるメッセージが表示されます。ページが作動可能になるまでは、ボタンやリンクをクリックしないでください。

多数の組織を含む「組織」ページを開くときも、同様の問題が発生します。

回避策

「ユーザー」ページが読み込む時間がかかりすぎる場合は、jdapi-wildusersearchresults プロパティを十分に低い値に設定して、ページが高速に読み込むようにすることができます。次に例を示します。

```
jdapi-wildusersearchresults=50
```

「組織」ページが読み込む時間がかかりすぎる場合は、jdapi-wildorgsearchresults プロパティを低い値に設定します。次に例を示します。

```
jdapi-wildorgsearchresults=10
```

jdapi-wildusersearchresults と jdapi-wildorgsearchresults は resource.properties ファイル内のプロパティです。

resource.properties ファイルは、次のデフォルトのパスにあります。

```
da_base/data/WEB-INF/classes/sun/comm/cli/server/servlet/  
resource.properties
```

「ユーザープロパティ」ページで、「転送先アドレス」ボックスをオフにし、「ローカルの受信箱」を選択して、変更を保存することができない (#6230702)

ユーザーに転送アドレスが指定されている場合は、「ユーザープロパティ」ページの「転送先アドレス」ボックスをオフにし、「ローカルの受信箱」をオンにすることはできません。

回避策

最初に、「ローカルの受信箱」をオンにし、「保存」をクリックします。

次に、「**転送先アドレス**」ボックスをオフにし、「**保存**」をクリックします。

Delegated Administrator が config-commda プログラムで再設定されると、resource.properties ファイル内の値が上書きされる (#6218713)

config-commda プログラムを再度実行して Delegated Administrator の既存の設定済みインストールを設定すると、resource.properties ファイル内のプロパティはデフォルト値に再設定されます。

たとえば、以前に次のプロパティを次の値に設定したとします。

```
jdapi-wildusersearchresults=50
```

```
jdapi-wildorgsearchresults=10
```

そこで config-commda を実行すると、これらのプロパティは次のようにデフォルト値に再設定されることがあります。

```
jdapi-wildusersearchresults=-1
```

```
jdapi-wildorgsearchresults=-1
```

この問題は、Delegated Administrator 設定を変更した場合、つまり、プラグインを使用可能にしたか resource.properties ファイル内のプロパティの値を変更したかどうかのみ、影響があります。

回避策

Delegated Administrator をアップグレードする必要がある場合、またはその他の理由により config-commda プログラムを返す必要がある場合は、次の処置を取ることで既存の設定を保持することができます。

1. resource.properties ファイルをバックアップします。
resource.properties ファイルは、次のデフォルトのパスにあります。
da_base/data/WEB-INF/classes/sun/comm/cli/server/servlet/resource.properties
2. config-commda プログラムを実行します。
3. config-commda プログラムによって作成される新しい resource.properties ファイルを、次のように編集します。
(新しいファイルは、前述の**手順 1**に示されているデフォルトのパスにある)
 - a. 新しい resource.properties ファイルを開きます。
 - b. resource.properties ファイルのバックアップコピーを開きます。
 - c. カスタマイズされたプロパティをバックアップコピーに入れます。カスタマイズした値を、新しい resource.properties ファイル内の対応するプロパティに適用します。

単にバックアップコピー全体で新しい resource.properties ファイルを上書きしないでください。新しいファイルには、このリリースの Delegated Administrator をサポートするために作成される新しいプロパティが含まれる場合があります。

`sunpresenceuser` および `sunimuser` オブジェクトクラスを両方ともユーザーエントリに割り当てると、`comadmin user modify` コマンドが失敗する (#6214638)

回避策
ありません。

新たに作成されるユーザーがドメインのタイムゾーン (TZ) を継承しない (#6206160)

デフォルト以外のタイムゾーンを持つドメインを作成し、次に `-T <timezone>` オプションを使用して明示的ではなく新しいユーザーを作成すると、そのユーザーにはデフォルトのタイムゾーン (米国 / デンバー) が指定されます。

たとえば、ヨーロッパ / パリのタイムゾーンを持つ `sesta` というドメインを作成するとします。次に、`sesta` 内に新しいユーザーを作成します。ユーザーには、デフォルトのタイムゾーンである米国 / デンバーが指定されます。

回避策
ユーザーを作成または変更するときに、`-T <timezone>` を `comadmin user create` または `comadmin user modify` コマンドに明示的に渡します。

`comadmin domain purge` コマンドがカレンダーリソースをパージしない (#6206797)

回避策
ありません。

管理者を正常に追加するために組織のプロパティ ... ページを保存する必要がある (#6201912)

組織のプロパティ ... ページを開き、指定したユーザーに管理者ロールを割り当てる場合は、管理者を正常に追加するために組織のプロパティ ... ページを保存する必要があります。新しい管理者を割り当てたあとでログアウトすると、管理者は追加されません。

TLA または SPA が共有組織の「ドメインのエイリアス名 :」テキストフィールドを更新できない (#6200351)

この問題は、次の手順を実行した場合に発生します。

1. TLA または SPA として Delegated Administrator コンソールにログインします。
2. DEF などの共有組織を選択します。
3. 「表示 :」 ドロップダウンリストから「この組織のプロパティ」を選択します。
4. 「ドメインのエイリアス名 :」 テキストフィールドに有効な値を入力します。
5. 「保存」 をクリックします。

「この組織のプロパティは正常に変更されました。」 というメッセージが表示されます。

ただし、組織のプロパティのページに移動しても、ドメインの新しいエイリアス名は表示されません。新しい値は LDAP ディレクトリには保存されません。

組織内のユーザーからすべてのサービスパッケージを削除し、次に「サービスパッケージ」ページから新しいサービスパッケージを割り当てると、新しいサービスパッケージの割り当てに失敗する (#6198361)

この問題は、すべてのサービスパッケージをユーザーから削除し、次の「サービスパッケージ」ページからそのユーザーにサービスパッケージを追加する場合に発生します。

新しいサービスパッケージをユーザーに追加できるのは、次のいずれかの場合です。

- 新しいサービスパッケージを追加する前に、少なくとも 1 つのサービスパッケージがユーザーに割り当てられている場合。つまり、すべてのサービスパッケージが削除されたわけではない場合。
- 「この組織のユーザー」ページを使用して、新しいサービスパッケージを追加する場合。

回避策

次の処置を取ってください。

1. 「この組織のユーザー」ページを開きます。
2. ユーザーを選択します。
3. 「サービスパッケージを割り当て」ボタンをオンにし、目的のサービスパッケージを選択します。

デフォルトの管理者の電子メールアドレスを指定できないため、ASCII 以外の新しい組織でエラーが発生する (#6195040)

デフォルトの管理者の uid は、デフォルトで「admin_new_organization_name」に指定されます。新しい組織名に ASCII 以外の文字が含まれている場合、その uid を使用する電子メールアドレスは無効です。

組織からサービスパッケージを削除すると、「サービスパッケージの割り当てに変更がありません。」というメッセージが表示される (#6190486)

組織からサービスパッケージを削除して「保存」をクリックすると、サービスパッケージは削除されますが、「サービスパッケージの割り当てに変更がありません。」というメッセージが誤って表示されます。

このリリースの Delegated Administrator でユーザーのログイン ID を編集できない (#6178850)**詳細検索機能が組織に対して正しい結果を返さない (#5094680)**

この問題は、次の手順を実行した場合に発生します。

1. 「詳細検索」機能を選択します。
2. ドロップダウンリストから「組織」を選択します。
3. 「以下のすべてに一致」または「以下の一部に一致」ラジオボタンをクリックします。
4. ドロップダウンリストから組織名を選択します。
5. テキストフィールドに有効な値を入力します。

6. 「検索」をクリックします。

検索条件と一致する組織のみが返されるのではなく、Delegated Administrator ではすべての組織が表示されます。

「新しい組織を作成」ウィザードの「概要」ページに組織詳細のすべてが表示されない (#5087980)

「新しい組織を作成」ウィザードで新しい組織を作成すると、「ドメインのディスク制限容量」や「メールサービス状態」などの一部の詳細は、ウィザードの「概要」ページに表示されません。

Net Connect のインストール

使用しているシステムにすでに Net Connect がインストールされている場合は、<http://docs.sun.com/doc/817-2390-01> にあるカスタマイズインストールガイドを確認してください。

Configuration and Service Tracker (CST) 3.5 エージェントコンポーネントが、SRS Net Connect インストールの一部としてインストールされます。ただし、Net Connect インストールでは、CST サーバーコンポーネントはインストールされません。CST コンソールおよびデータを表示するには、CST 3.5 パッケージを Sun Download Center (<http://www.sun.com/service/support/cst>) からダウンロードし、CST サーバーを手動でインストールします。次に、記載された接続方法に従って、CST エージェントを CST サーバーに接続できます。

Portal Server のインストール

Portal Server のインストールおよびアンインストールが、ハングアップしているように見える (5106639)

Portal Server のインストールおよびアンインストール時に、インストーラおよびアンインストーラがハングアップしているように見えます。インストールまたはアンインストールが正しく終了するまで、最大で 30 分遅れることがあります。

マルチセッションインストールでゲートウェイのリダイレクトが行われぬ (4971011)

インストールモードに関係なく、マルチセッションインストール中はゲートウェイのリダイレクトは行われません。

回避策

1. Portal Server ブラウザを起動して、amconsole にアクセスします。
2. 「サービス設定」タブで、「ゲートウェイ」を選択します。
3. ウィンドウの右下で、「default」および「セキュリティ」タブもクリックします。
4. 次に、「非認証 URL」フィールドに URL を「`http://IS_HOST:PORT/amserver/UI/Login`」のように追加します。

サンプルの URL は、`http://boa.prc.sun.com:80/amserver/UI/Login` です。

- 最後に、スーパーユーザーで次のように入力し、Portal ゲートウェイを再起動します。

```
# /etc/init.d/gateway -n default start debug
```

共有コンポーネントに関する問題点

インストール後の設定変更により、SUNWcacaocfg について pkgchk が失敗する (6195465)

pkgchk コマンドを `-n` オプションとともに使用すると、SUNWcacaocfg について失敗することがあります。Common Agent Container により、起動時に一部のファイルの所有権および構成の設定の変更が発生します。このため、`pkgchk -n SUNWcacaocfg` を実行すると、ファイル所有権についてのエラーメッセージが返されることがあります。この問題が発生する可能性があるのは、Solaris x86 および Solaris SPARC の場合のみです。

インストーラは、Tomcat 4.0.1 から Tomcat 4.0.5 へアップグレードしない (6202992)

インストーラは、SUNWtcatu パッケージをアップグレードしません。

回避策

インストールを開始する前に、`pkgrm` を使用して SUNWtcatu を手動で削除します。次にインストーラを実行したときには、適切なバージョンの Tomcat 4.0.5 パッケージがインストールされます。

Sun Java Web Console 設定スクリプトが SUNWtcatu パッケージをアップグレードしない (6202315)

回避策

インストールを開始する前に、`pkgrm` を使用して SUNWtcatu を手動で削除します。

Sun Cluster のインストール

JDK および Common Agent Container パッケージが「`scinstall -r`」で削除される (5077985)

回避策

`scinstall` を `-r` オプションで実行する前に、`/usr/cluster/lib/scadmin/dot.order` から SUNWcacao および SUNWcacaocfg を手動で削除します。

SunPlex Manager インストールモジュールがサポートされていない (4928710)

Sun Cluster のインストールに SunPlex インストーラを使用できません。

回避策

Java ES インストーラを使用して Sun Cluster を最小限のモードでインストールします。その後、`scinstall` を使用してインストールと設定手順を完了します。詳細は、『Sun Cluster Installation Guide』を参照してください。

Sun Cluster HA 管理サーバーエージェントを CD からインストールできない (6212471)

Sun Cluster HA 管理サーバーを Java Enterprise System CD、Volume 2 からインストールする場合、インストールが失敗します。エージェントの 1 つは、CD、Volume 1 に含まれている SUNWasvr パッケージに依存します。このため、インストーラは SUNWasvr を見つけられません。すると、インストーラは既存のパッケージすべてを削除して終了します。

回避策

Administration Server をインストールしてから HA 管理サーバーをインストールします。または、エージェントをインストールする前に、最小限、SUNWasvr がシステムにインストールされているようにします。

Sun Cluster HA Application Server Agent は Application Server 8.1 および HADB 8.1 をサポートしない (6212333)

インストーラでは、Application Server および HADB 8.1 とともに Sun Cluster HA Application Server Agent をインストールすることを選択するオプションが表示されます。しかし、HA Application Server Agent は Application Server および HADB 8.1 をサポートしません。このため、HA Application Server を設定できません。

回避策

HA Application Server Agent を Application Server および HADB 8.1 とともにインストールしないでください。

以前のバージョンの Directory Server 用 Sun Cluster データサービス (特定の ID なし)

Java Enterprise System 2005Q1 には、Sun Java System Directory Server 5 2004Q2 用の Sun Cluster データサービスが含まれています。Sun Java System Directory Server 5.0 か 5.1、または Netscape HTTP、バージョン 4.1.6 用の Sun Cluster データサービスが必要な場合は、Sun Cluster 3.1 データサービス 10/03 リリースで入手できます。このリリースを入手する場合は、ご購入先のカスタマサポートの担当者にご連絡してください。

Oracle Parallel Server/Real Application Clusters 用の Sun Cluster データサービスが、Sun Cluster 3.1 CD からインストールされない (特定の ID なし)

代わりに、Java Enterprise System 1 Accessory CD、Volume 3 からインストールされます。また、このデータサービスはエージェント CD からはインストールされません。代わりに、Java Enterprise System 1 Accessory CD、Volume 3 からインストールされます。

Sun Cluster Agent がシステムに存在している場合、インストーラが Sun Cluster Agent の追加インストールを許可しない (特定の ID なし)

Java Enterprise System インストーラの実行前に Sun Cluster Agent がインストールされていると、インストーラが Agent の追加インストールを許可しません。

回避策

追加の Sun Cluster Agent を、pkgadd を使用してインストールします。

Web Server のインストール

Web Server インストールディレクトリに以前にインストールしたバージョンのファイルが格納されている場合、Web Server のインストールは失敗する (特定の ID なし)

回避策

設定ファイルをすべてバックアップします。次に、Java Enterprise System インストーラを使用して Web Server をインストールする前に、インストールディレクトリを削除します。

ローカライズに関する問題点

Delegated Administrator: 「利用可能な言語」 リストの機能が明確でない (#6234120)

言語タグ付きの cn、sn、および givenname を LDAP ディレクトリに追加するには、最初に、「新規ユーザー」ウィザードに英語のタグなしの名前を追加して、ユーザーを作成する必要があります。

次に、「ユーザープロパティ」ページで、「利用可能な言語」リストから言語タグ付きの名前に対して必要な言語を選択します。このリストには、「名」、「姓」、および「表示名」フィールドが並んで表示されます。次に例を示します。

使用可能な言語のリストからフランス語を選択し、「名」に **Jacques**、「姓」に **Chirac** と入力します。これにより、LDAP に次の値が設定されます。

```
givenname;lang-fr=Jacques
sn;lang-fr=Chirac
cn;lang-fr=Jacques Chirac
```

Delegated Administrator: 「この組織はすでに存在しています。」というエラーメッセージがローカライズされていない (#6201623)

既存の組織と同じ名前を持つ組織を作成しようとすると、Delegated Administrator で「この組織はすでに存在しています。」というエラーメッセージが表示されます。このメッセージは英語で表示され、翻訳されていません。

「カスタム設定」インストーラ画面が、不正なテキストレイアウトで表示されることがある (6210498)

回避策

ウィンドウのサイズを変更します。次に、「戻る」、「次へ」の順にクリックします。ウィンドウは正しく表示されるようになります。

すべてのロケールでインストールする場合、「あとで設定」オプションを使用できない (6206190)

すべてのロケールでインストールする場合、「あとで設定」オプションを使用すると、SUNWasuee パッケージへのリンクの多くが切断されます。

回避策

地域対応のパッケージの追加は、インストール後に手動で実行します。

既知の問題および制限事項：アンインストール

Web Server および Application Server のデフォルトのインストールディレクトリの誤り (6197056)

Web Server および Application Server を Linux にインストールした場合、インストーラは誤ったデフォルトのディレクトリにインストールします。

- Application Server の場合、インストーラはデフォルトを次のように設定します。

```
/opt/SUNWappserver/appserver
```

```
/var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/docroot
```

正しいディレクトリは次のとおりです。

```
/opt/sun/appserver
```

```
/var/opt/sun/appserver/domains/domain1/docroot
```

- Web Server の場合、インストーラはデフォルトを次のように設定します。

```
/opt/SUNWwbsvr
```

```
/opt/SUNWwbsvr/https-<...>.PRC.Sun.COM/docs
```

正しいディレクトリは次のとおりです。

```
/opt/sun/webserver /opt/sun/webserver/https-<...>.PRC.Sun.COM/docs
```

回避策

インストーラによって示されるデフォルトのインストールディレクトリを使用しないでください。前述の正しい値を手入力します。

アンインストーラがハングアップし、パッケージのすべてを削除しない (5091416)

インストーラがインストール時に中断された場合、インストーラの再起動またはアンインストーラの実行ができません。パッケージのインストールに成功している場合でも、インストーラはインストール済みのパッケージを認識しません。

回避策

以前にインストールした Java ES の残りのパッケージ、ディレクトリ、およびファイルを手動で削除します。

Sun Cluster コンソールをアンインストールするとロケールパッケージが削除される (4994462)

Java ES のアンインストーラを使用して Sun Cluster をアンインストールできません。Sun Cluster コンソールパッケージ SUNWcccon を削除すると、アンインストーラが Sun Cluster に関連するロケールパッケージもすべて削除しようとします。

回避策

pkgadd を使用してロケールパッケージを再度追加します。

Sun Cluster 以外のロケールパッケージを再インストールする場合は、以下の手順を実行します。

1. メディア上で、`${Media}/Product/${PP}/Packages/locale/${locale}` ディレクトリに移動します。
2. リスト表示されたすべてのパッケージを再インストールします。他のコンポーネント製品またはロケールについて、この手順を繰り返します。

Sun Cluster 用のロケールパッケージを再インストールする場合は、以下の手順を実行します。

1. メディア上で `${Media}/Product/sun_cluster/Solaris_version/Packages` または `${Media}/Product/sun_cluster_agents/Solaris_version/Packages` ディレクトリに移動します。
2. あるロケールのパッケージすべてをリスト表示します。

```
# grep -i "<locale full name>" */pkginfo
```
3. pkgadd を使用して、表示されたパッケージを再インストールします。他のロケールについて、この手順を繰り返します。

既知の問題 : Linux の場合

必須ライブラリ

Linux では、次の互換性のあるライブラリが必要です。

- compat-gcc-7.3-2.96.128.i386.rpm
- compat-gcc-c++-7.3-2.96.128.i386.rpm
- compat-libstdc++-7.3-2.96.128.i386.rpm

64 ビット Linux を実行している場合、32 ビット Linux のシステムライブラリのインストールが必要です。

Message Queue が Java ES インストーラでインストールされている場合、アンインストールにアンインストーラが必要 (特定の ID なし)

Linux RPM を直接削除した場合、次にインストーラを実行したとき、インストーラは Message Queue をまだインストールされていると見なし、正しく動作しません。

回避策

すでに手動で Message Queue RPM を削除した場合は、アンインストーラを使用して Message Queue をアンインストールする必要があります。アンインストーラを実行し、削除する Message Queue コンポーネントを選択します。

ライブラリの共有コンポーネントへのリンクの切断による、Directory Server のインストールに関する問題 (6199933)

/opt/sun/identity/lib 内のリンクの一部が切断されています。

回避策

次の手順に従い、/opt/sun/identity/lib を変更します。

1. /lib ディレクトリに移動します。
cd \${AM_INSTALL_DIR}/identity/lib
2. .jar ファイルを削除します。
rm -rf jaxrpc-spi.jar relaxngDatatype.jar xsdlib.jar
3. 新規のリンクを作成します。
ln -s /opt/sun/private/share/lib/jaxrpc-spi.jar
ln -s /opt/sun/private/share/lib/relaxngDatatype.jar
ln -s /opt/sun/private/share/lib/xsdlib.jar

savestate ファイルが表示される (5062553)

インストール中に次のコマンドを発行すると、後で使用するために、入力した値が状態ファイルに記録されるように指定することが可能です。

```
# ./installer -savestate=/var/tmp/save.state.output.txt
```

この状態ファイルのデフォルトの権限では、root 以外のユーザーがこのファイルの内容を参照できません。

回避策

インストールが完了したら、chmod コマンドを使用してファイルに対する権限を変更します。

```
# chmod 600 save.state.output.txt
```

Instant Messaging Server を別のセッションでインストールできない (6175419)

Instant Messaging Server および Access Manager を別々のセッションでインストールする場合、インストールが失敗します。

回避策

Instant Messaging Server および Access Manager SDK は同じインストールセッションでインストールします。

Red Hat Linux 3.0 上で Directory Server を設定できない (5087845)

インストール時、必要な共有ライブラリ compat-libstdc++-7.3-2.96.122 RPM がインストールされません。RPM がいない場合、Directory Server は設定できません。

回避策

ディストリビューション CD から手動で RPM をインストールします。

インストール時にアンインストーラ RPM がインストールされないことがある (5060658)

コンポーネント製品のインストール時に、アンインストールに必要な RPM の 1 つである sun-entsys-uninstall-110n-2.0-1 がインストールされないことがあります。

回避策

次のことを実行して、不明なアンインストール RPM を手動でインストールします。

```
# rpm -i sun-entsys-uninstall-2.0.i386.rpm
```

RPM をインストールすると、アンインストールスクリプトが表示されます。

Linux 上での NSPR と NSS の Message Queue による C-API 使用 (特定の ID なし)

Linux 版の Java Enterprise System では、Message Queue は、NSPR (Netscape Portable Runtime) と NSS (Network Security Services) のライブラリの独自のコピーを提供します。Message Queue と一緒にインストールされたバージョンは、Java Enterprise System によってインストールされたバージョンよりも古いものです。

Message Queue がデフォルトの場所にインストールされた場合、古いライブラリは /opt/imq/lib に格納されています。Message Queue C アプリケーションをビルドする場合、Message Queue C 実行時ライブラリ (mqcrt.so) は /opt/imq/lib 内の古い NSPR ライブラリと NSS ライブラリにリンクします。これはサポートされ、テスト済みの組み合わせですが、/opt/sun/private/lib の Java Enterprise System でインストールされる新しいバージョンを使用することをお勧めします。

新しいバージョンのライブラリを使用するには、LD_PRELOAD 環境変数を以下のように設定します。

```
/opt/sun/private/lib/libnspr4.so:¥  
/opt/sun/private/lib/libplc4.so:¥  
/opt/sun/private/lib/libplds4.so:¥  
/opt/sun/private/lib/libnss3.so:¥  
/opt/sun/private/lib/libssl3.so
```

Message Queue C アプリケーションを実行する前に設定します。

正常にインストールされた後、インストーラの最後のページに java 例外エラーが表示される (5052226、#5041569)

インストールに成功しても、インストーラの最後のページにいくつかの java 例外が表示され、インストールに成功したというメッセージは表示されません。

回避策

エラーを無視し、/var/sadm/install/logs にあるログを確認します。ログを参照すると、インストールに成功したかどうかわかります。

一部のロケールでは、インタフェースのウィンドウの幅が狭すぎる (4949379)

ドイツ語などの一部の言語にはウィンドウが狭すぎ、インタフェース全体が表示されません。その結果、ヒントなどのテキストの右側または下部が表示されません。

回避策

ウィンドウのサイズを手動で変更します。

ユーザーがインストーラを終了しても、Directory Server と管理サーバーが動作を続行する (5010533)

回避策

Directory Server と管理サーバーを手動で終了します。スーパーユーザーになり、以下を実行します。

```
#!/opt/sun/directory-server/stop-admin  
#!/opt/sun/directory-server/slaped-hostname/stop-slaped.
```

インストーラで「ようこそページ」が表示されるまでに 3 ~ 4 分かかる (5051946)

グラフィカルインタフェースを起動するとき、「ようこそページ」が表示されるまでに 3 ~ 4 分かかります。時間がかかっても、インストーラがハングアップしたわけではありません。

回避策

ありません。

日本語および韓国語のロケールで、グラフィカルインストーラのサマリーページが空白になることがある (5043169)

回避策

ありません。

Netscape Security Services 3.9.5 のサポート

Netscape セキュリティライブラリのバージョン 3.9.5 は、Java Enterprise System に含まれています。Directory Server、Directory Proxy、および管理サーバーは、`/usr/lib/mps/` の下にもインストールされているライブラリのより古いバージョン (3.3.x) に依存することがあり、これらのライブラリに依存するその他のすべてのコンポーネント製品は、`/usr/lib/mps/secv1/` の下にあるより新しいバージョン (3.9.5) に依存します。

Java Enterprise System についてのマニュアルの更新および正誤表

『Messaging Server リリースノート』の章の参照の誤り (特定の ID なし)

『Sun Java System 6 2005Q1 Messaging Server リリースノート』で、バグ 6175770 で参照している『Sun Java Enterprise System 6 2005Q1 Installation Scenarios』の「Chapter 3: Installation Scenarios」に誤りがあります。この章のタイトルは「Chapter 3: Example Installation Sequences」です。

『Messaging Server リリースノート』のバグ ID の誤り (#6234214)

『Sun Java System 6 2005Q1 Messaging Server リリースノート』の表 5 (Messaging Server 6 2005Q1 の修正されたバグ) のバグ番号 6196942 は、6191942 であるべきです。

imexpire の排他的ルールに関する情報に誤りがある (#6232732)

『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q1 管理ガイド』の表 18-8 の「exclusive」の項で、属性値の選択肢は 0 または 1 であるべきで、yes または no ではありません。

『Messaging Server 管理ガイド』の comm_sssetup.pl に関する説明の誤り (6225803)

『Messaging Server 管理ガイド』では、/opt/SUNWmsgsr/install/dssetup.zip にある comm_dssetup.pl を使用するよう説明しています。この comm_dssetup.pl は使用しないでください。

回避策

/opt/SUNWcomds/sbin にあるバージョンを使用します。

『Access Manager 2005Q1 管理ガイド』に新しい章が追加された

「Installing and Configuring Third Party Web Containers」の章では、BEA WebLogic 8.1 および IBM WebSphere 5.1 を Access Manager 配備で Web コンテナとしてインストールおよび設定するための手順を、詳しく説明しています。

Sun Cluster のマニュアルの場所

Sun Cluster のマニュアルは、Java Enterprise System Accessory CD Volume 3 と docs.sun.com で入手できます。Sun Cluster 3.1 のマニュアル一式については、<http://docs.sun.com/prod/entsys.05q1> を参照してください。

次のマニュアルは重要視されていませんでしたが、現在、各情報は、『Sun Java Systems Communications Services 6 2005Q1 配備計画ガイド』に収められています。

- 『Sun Java System Calendar Server 6 2004Q2 配備計画ガイド』
- 『Sun Java System Instant Messaging 6 2004Q2 配備計画ガイド』
- 『Sun Java System Messaging Server 6 2004Q2 配備計画ガイド』
- 『Sun Java System Communications Services 6 2004Q2 Enterprise 配備計画ガイド』

また、『Sun Java System Instant Messaging 6 2004Q2 インストールガイド』の情報は、『Java Enterprise System インストールガイド』に移動しました。

Directory Proxy Server 5 2005Q1 リリースノート

- 『Directory Proxy Server 5 2005Q1 リリースノート』 (<http://docs.sun.com/doc/819-1953?l=ja/>) の表 8 に、116374-14、Solaris 9 (x86) 用の Directory Proxy Server 5.2 パッチが記載されていません。このパッチは、『Sun Java Enterprise System 2005Q1 アップグレードと移行』 (<http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja/>) の「Java Enterprise System より前のバージョンからのアップグレード」の章の表 3-3 に記載されています。
- 『Sun Java System Directory Proxy Server 5 2005Q1 リリースノート』 (<http://docs.sun.com/source/819-1953?l=ja/>) の表 6～8 に、ローカライズされた Solaris パッケージ用のパッチであるパッチ 117017 の正しいパッチの最小リビジョンレベルが示されていません。正しいパッチの最小リビジョンは 117017-16 です。

再配布可能なファイル

Sun Java Enterprise System 2005Q1 には、再配布可能なファイルはありません。

問題の報告とフィードバックの方法

Java Enterprise System で問題が発生した場合は、次のいずれかの方法でご購入先のカスタマサポートに連絡してください。

- 次のアドレスにある、ご購入先のソフトウェアサポートサービス
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
このサイトには、メンテナンスプログラムおよびサポート連絡先番号だけでなく、Knowledge Base、オンラインサポートセンター、および ProductTracker へのリンクがあります。
- 保守契約を結んでいるお客様の場合は、専用ダイヤルをご利用ください。

最善の問題解決のため、サポートに連絡する際は次の情報をご用意ください。

- 問題の説明。問題が発生する状況や、その問題が操作に及ぼす影響など
- マシン機種、OS のバージョン、および製品のバージョン。問題に影響を及ぼしている可能性のあるパッチその他のソフトウェアなど
- 問題を再現するための詳細な手順の説明
- エラーログまたはコアダンプ

また、Sun Java Enterprise System のトピックを取り扱っている次のグループの会員となると、有益な情報を得られることがあります。

[snews://<YourNewsForum>](#)

[snews://<YourSecondNewsForum>](#)

コメントの送付方法

Sun では、マニュアル品質改善のため、ユーザーの皆様のご意見、ご提案をお待ちしています。

コメントを共有するには、<http://docs.sun.com> に移動し、「コメントの送信」をクリックします。オンラインフォームでは、マニュアルのタイトルおよび Part No. が提供されています。Part No. は、マニュアルのタイトルページか先頭に記述されている 7 桁または 9 桁の番号です。たとえば、このマニュアルのタイトルは『Java Enterprise System リリースノート』であり、Part No. は 819-0815 です。

Sun が提供しているその他のリソース

次のインターネットアドレスには、Sun に関する役立つ情報が掲載されています。

- Sun のマニュアル
<http://docs.sun.com/prod/java.sys>
- Net Connect のマニュアル
http://docs.sun.com/coll/NC3dot1_collection_en
- Sun の上級者向けサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun のソフトウェア製品とサービス
<http://www.sun.com/software>
- Sun のソフトウェアサポートサービス
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
- Sun のサポートおよび Knowledge Base
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun のサポートおよびトレーニングサービス
<http://training.sun.com>
- Sun のコンサルティングおよび上級者向けサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun の開発者向け情報
<http://sunsolve.sun.com>
- Sun の開発者向けサポートサービス
<http://www.sun.com/developers/support>

- Sun ソフトウェアのトレーニング
<http://www.sun.com/software>
- Sun のソフトウェアデータシート
<http://www.sun.com/software>

Sun が提供しているその他のリソース